

親子のエコクッキング実施

地域と関わり、持続可能な社会実現目指す

日本テトラパック

日本テトラパックはこのほど、世田谷区立男女共同参画センターらぶらす主催による「パパと子どもエコクッキング」世田谷野菜をつかって@オンライン」に共催、6組の親子が参加した。

日本テトラパックは、「持続可能性」を企業戦略に掲げ、「食品」「人々」「地球」の3つを守るアプローチによって実現を目指している。

その中で、地域コミュニティとのかかわりにより、持続可能なより良い社会の実現を目指すために、全国女性会館協議会の取り組みに賛同し、母親のワークライフバランスの向上を支援するため、子どもと父親のためのクッキングレッスンや、

環境教育、リサイクル活動の推進などに積極的に取り組んでいる。

また、全国女性会館協議会は、全国の男女共同参画センター等における事業の充実・発展を図ることに、男女共同参画社会の形成促進に寄与していくことを活動目的に掲げている。日本テトラパックからの助成金により、2012年度から19年度までの8年間にわたり(20年度はコロナ禍により中止)、全国各地の会員館において「働く母親を応援する男性子どもの生活自立支援事業」を展開。8年間の子どもと保護者の参加者数は3000人程にのぼる。

2022年度は、男女共同参画の視点にたった持続

可能な社会づくりに寄与することを目的に、頻発する

災害に備えるため、「働く母親を応援する災害時に役立つエコクッキング事業」を全国4カ所

親と子どもは日頃一緒に過ごす時間が少なく、家事・育児は母親が多く担っている傾向があることがデータからわかっている。このパ

役立つエコクッキング事業」を全国4カ所実施。日本テトラパックは助成金および食材提供等を通してこの取り組みを支援している。

親と子どもは日頃一緒に過ごす時間が少なく、家事・育児は母親が多く担っている傾向があることがデータからわかっている。このパ



世田谷区立男女共同参画センターらぶらす主催で開催された「パパと子どものエコクッキング」世田谷野菜をつかって@オンライン」では、冒頭、らぶらすの河村職員が「父

親と子どもは日頃一緒に過ごす時間が少なく、家事・育児は母親が多く担っている傾向があることがデータからわかっている。このパ

てもらえたらと思う」と挨拶があった。

講師には、世田谷で人気の子どもの料理教室「食育クッキング」の阿知和りかさん(写真上)を起用し、災害とエコという2つのテーマに沿って、世田谷産野菜を使用した「ひよこ豆のドライカレー」と「つぶつぶり豆乳コーンスープ」の2品の調理実習が行われた。なお、講座への参加は無料、使用する食材は日本テトラパックから提供された商品と、JA東京中



央から購入した野菜をらぶらすから各家庭に事前配送。さらに参加者には日本テトラパックからジュースやお茶などがプレゼントされた。

調理メニューである「つぶつぶり豆乳コーンスープ」には、はごろもフーズのパパッと紙パック入り「シヤキツと!コーン」「シヤキツと!コーンクリーム」(同右)下、キツコマンの「おいしい無調整豆乳」(同左)を使用。講師の阿知和りかさんは「コーンの汁はご飯を炊く際に活用すると食品ロスを削減できる。これはSDGsの12番つくる責任、つかう責任」に貢献することになる」など、2030年に向けた持続可能な開発目標SDGsとの関係性と交えながら調理実演を行った。オンライン画面では「ひよこ豆のドライカレー」に使用する世田谷産の野菜をカット、調理する際、親子で手際よく協力し合う姿がみられた。

完成後は料理の盛りつけおよび食事が行われ、日本テトラパックによる、紙パックリサイクルの重要性や、三角オーブナーを用いた紙容器のリサイクルの仕方などが動画で紹介され

た。参加した子どもたちからは、「ピーマンは苦手だったけれど、自分で作ったらおいしく食べられた」「コーンスープづくりが楽しかった」などの感想が挙がったほか、「これからは給食でも家でも食べられる分だけ器によさうにする」「買い物にはマイバックをもっていく」など環境への取り組みに関する声もあがった。また、父親からは「普段はなかなか家事をする機会がなく、今回3時間は長いかと思ったが、子どもと楽しく料理ができた。エコに関する話をしていただきためになった」など、前向きな声がかかれた。

阪口館長は「一人でも多くの父親が積極的に家事に取り組みもうと思ってもらえるきっかけになれば嬉しい。当館は調理をできるスペースをもっていないが、今回、オンライン形式で料理教室が実施できることがわかり、当館以外の調理スペースのないセンターでも取り組める企画だと実感できたので、この取り組みを広げていきたい」と今後への思いを語った。

(一部修正のため、再掲載)